

第104号
(発行所)
 真宗大谷派
 松岡山 廣讚寺
 中村区城屋敷町3-30
 TEL (052) 411-5301
 FAX (052) 411-5341
 携帯 090-1568-4623
(E-mail)
 matsuoaka@kosanji.or.jp

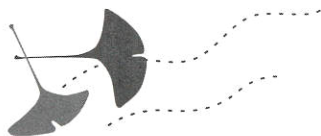
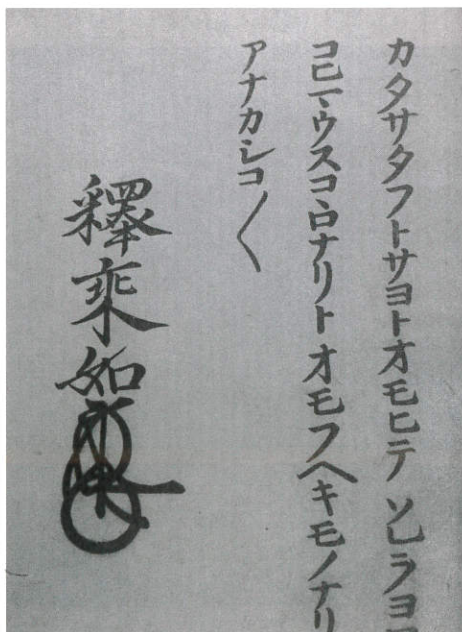
あなかしこ

蓮如上人の作られた『御文』を拝読していると最後に、「あなかしこ、あなかしこ」と結ばれています。

あなかしことは、まず「あな」は感嘆の表現で、「あ
 あ」という意味。かしことは「かしこし」の語幹から
 成り、畏い^{かしこ}という漢字が当てはまり、意味は慎む^{つし}とい
 う意味です。

蓮如上人は「あなかしこ」を書かれた想いは、親鸞
 聖人の教えを私（蓮如）はいただいた。その中身を謹^{つし}
 んでお伝えいたします。という強い意志で御文の最後
 で聞く者に対し念を押されているのではないかと思
 います。そこには自信教人信のお心がうかがえます。

御文を拝読したり、拝聴するときには蓮如上人からの
 メッセージをひしと受けいれていきたいものです。



仏教は悩んでいる人のためにある

さみしい、悲しい、苦しい、不安だ、など人間は人生を歩む上でさまざまな困難に出会う。私は何の悩みも不安もないというには仏教は響かない。ただ単に身内が亡くなったから葬儀を、法事をしなければなら



い、という仏事だけが仏教ではない。お釈迦さまは深く悩み、修行をして悟りを開かれた。その悟りの内容は、我々の苦しみをどのように受け止

めていったらよいのかというものだ。

苦しみでい

っぱい、悩み

がもう限界ま

できている、

という時こそ

仏教を聞ける

のである。

「その悩み

があつたおか

げで仏様の教えに出会えた」といった感じに本当に思えるようになれば、その悩みにありがたさを感じるようになるのではと思う。



墓地のお話

伊藤和美

親鸞聖人の教えを聞く者は墓を持たない。お骨は親鸞聖人の墓に納めるか、本山に納めることになっていく。それが、墓を持つ他宗のマネをして墓を作る家が多くなった。

昭和に入り、廣讚寺の門徒も墓を持っている人が多くなった。廣讚寺境内にある墓地もお墓で満室状態だ。そこで廣讚寺墓地を調べてみた。

まず墓の総数は百四十七基（その他、持ち主不明が十八基）であった。季節の節目である正月、春彼岸、お盆、秋彼岸の時期が過ぎた頃にそれらの墓に花があるかを数えてみた。それをもとに参詣者の傾向を調べてみた。

季節ごとの墓参りのなかつた墓の数

平成二十二年	二十三年	二十四年	二十五年	二十六年	二十七年	二十八年
正月	24	29	30	25	26	30
春彼岸	44	35	41	34	45	-
お盆	17	25	22	18	19	21
秋彼岸	43	-	57	43	48	58

考察として、お盆の墓参りは多く、春秋の彼岸は少ない。しかし年を追うごとに減っていくというのではないようだ。

浄土真宗はお墓を持たないといえども、お墓のある人は季節ごとの墓参りくらいはしなくてはいけないと思う。墓参りをしない習慣がつくと一切お参りをしなくなる。

調査中ずっと花がない墓もあった。おそらく無縁墓であろう。

行事予定

十一月四日(金)二時 常任委員会

十二日(土)七時半 同朋委員会・例会
(役員は七時)

十九日(土)二時～四時 学習会

二十八日(月)十時 おみがき

二十八日講・女人講

報恩講

十二月二日(金)九時 仏華・華束準備

一時 おつとめ

三日(土)十時 おつとめ

坊さん漫才

『えしんりょう』

十二時 おとき

子供の献花

一時 おつとめ・御伝鈔

四日(日)十時 おつとめ

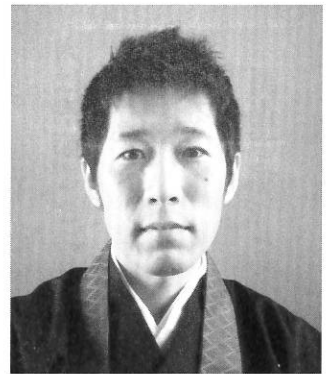
説教 飯田真宏師

十二時 おとき

子供の献花

一時 おつとめ・説教

三時 演芸会



飯田真宏師



坊さん漫才『えしんりょう』

十二月十日(土)七時半 同朋委員会・例会

(役員は七時)

十九日(月)二時～四時 学習会

二十八日(水)十時 二十八日講・女人講

三十一日(土)三時 歳末勤行

十一時半 除夜

二十組行事

十二月十五日(火)東別院報恩講

おつとめのけいこの後
外陣で助音につきます。